

物流システムの変化による物流施設と交通ネットワークのあり方の研究

主査 岩尾詠一郎（専修大学准教授）

産業構造が変化すると、その産業を支えている物流システムもそれに応じて変化していかなければならない。そして、物流システムが変化すると、商取引の経路である商流チャンネルや、物の移動経路である物流チャンネル、および物流を支える、物流施設や交通ネットワークもそれに応じて変化していかなければならない。

そこで本研究では、物流システムに着目し、物流システムの変化が、商流チャンネルや物流チャンネルに与える影響と、商流チャンネルと物流チャンネルの変化が、物流施設の立地場所や物流施設間を結ぶ交通ネットワークの整備に与える影響を、具体的な事例を用いながら明らかにしていくことを目的としている。

具体的には、物流システムと商流チャンネルおよび物流チャンネルの変遷を示し、次に、商流チャンネルおよび物流チャンネルと物流施設と交通ネットワークの変遷を示す。そして、物流システムと商流チャンネルおよび物流チャンネルと物流施設および交通ネットワークの整備との相互関係を示す。これが明らかになることで、物流システムが変化した場合の効率的となる物流施設と交通ネットワークの整備のあり方を示していく。

このうち、平成 23 年度上半期は、①流通チャンネル分析の枠組みを整理するとともに、②事例として、共同配送のうち、都市内の共同配送を取り上げ、共同配送実施が、流通チャンネルに与える影響を、具体的な都市内共同配送の実施例をもとに示した。

そして、平成 23 年度下半期は、①共同配送の事例を分類するとともに、②共同配送の導入時に求められる交通ネットワークの理論分析をおこない、1)共同配送の事例をもとに、共同配送と交通ネットワークの関係を示すとともに、2)交通ネットワークが共同配送のための積み合わせ場所の立地場所選定に与える影響を示した。これにより、物流システムを変更した場合の物流施設の立地場所と交通ネットワークに与える影響を示すことができた。